

さっぽろ創世スクエア（札幌市）

<http://sousei111n1w1.jp/>

天然ガスコージェネレーションシステムと地域熱供給による自立分散型エネルギー供給拠点

～ 観光客や帰宅困難者を受入 ～

主な事業	オフィス・商業ビル
発電に使用した燃料	天然ガス
地域への取組	帰宅困難者受入、宿泊スペース提供、充電サービス等

札幌市では、札幌都心の低炭素で持続可能なまちづくりのビジョンと、その実現に向けた戦略を示す「都心エネルギーマスタープラン」を平成30年3月に策定するとともに、都心部の開発に合わせてエネルギーネットワークの構築を進めている。その中で「さっぽろ創世スクエア」は地下に天然ガスコージェネレーションシステムと地域熱供給プラントを設置し、平常時の低炭素化と非常時の強靱化を兼ね備えた自立分散型のエネルギー供給拠点として、平成30年10月7日に全館オープンした。

今回の道内全域が停電した9月6日も天然ガスコージェネレーションシステムが稼働し、入居する札幌市民交流プラザやオフィス、隣接する札幌市役所本庁舎等への電力・熱の供給を継続することができた。

特に、札幌市では本ビルの「さっぽろ創生スクエア管理組合」と連携し、オープン前であった札幌市民交流プラザを開放し、観光客や帰宅困難者の受入や宿泊スペースの提供、スマホの充電スポットの設置、家電量販店に協力依頼して情報収集用のテレビの設置など、臨機応変な活動を展開した。また、都心エリアでコージェネを設置したそのほかの拠点ビルにおいても、ビル事業者と熱供給事業者、札幌市の連携により、同様の活動を行った。

このように、コージェネや長時間稼働可能な非常用発電機を備えたビルが臨時的防災拠点として活躍した。

札幌市都心まちづくり推進室は、「今回の震災を受け強靱化の観点からもエネルギーの取組をまちづくりと一体となって進めて行く必要性を改めて実感した。」と話す。



さっぽろ創世スクエア



天然ガスコージェネレーションシステム



地下通路に敷設した熱導管ネットワーク



滞留スペース（1F 市民交流プラザ）



宿泊スペース（3F 劇場ホワイエ）



充電スポット（2F 市民交流プラザ）